



小学校の社会科の教科書の変化 歴史内容は変化する！？

小学校の社会教科書の内容は、近年の考古学的発見や研究の進展にともない、親世代が習った内容から大きく変化しています。

1 縄文時代・弥生時代のイメージ変化

かつては「縄文時代＝原始的な狩猟採集」「弥生時代＝稲作が始まり文明化した」という明確な線引きで教えられていましたが、現在はその境界がグラデーションに変わっています。

縄文時代の見直し（三内丸山遺跡などの影響）

昔：毎日その日暮らしの移動生活をしていました。

今：大型高床建物や栗の栽培など、定住化が進み高度な文化を持っていたと教わります。

稲作の始まり（縄文晩期説）

昔：弥生時代から稲作が始まった。

今：縄文時代の終わり頃には、すでに九州北部などで本格的な水田稲作が始まっていた（菜畑遺跡や板付遺跡の発見による）。

2 大きく変わった歴史の重要キーワード

縄文時代以外にも、教科書の記述や用語自体が変わったものがあります。①聖徳太子「聖徳太子」としてのみ覚える「厩戸王（聖徳太子）」という併記が増加しています。理由は存命中の名前（厩戸王）と、後世の称え名（聖徳太子）を区別するため。②いい国（1192）作ろう 1192年：鎌倉幕府の成立 1185年に変更（源頼朝が守護・地頭を設置し、実質的な支配権を握った年を重視するため）。③仁徳天皇陵「仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）」「大仙陵古墳（だいせんりょうこふん）」実際に仁徳天皇の墓かどうか、学術的な確定が難しいため（遺跡名で表記）。④足利尊氏の肖像画おなじみの騎馬武者像「高師直（こうのもろなお）」などの説が濃厚に教科書から写真が消えるか、別人の可能性があると及言されるようになっていきます。

3 なぜ教科書の内容は変わるのか？

新しい遺跡の発見と科学分析の進歩が理由です。年輪年代法や放射性炭素年代測定などの技術が向上し、歴史の「時期」や「暮らし」がより正確に判明するようになりました。歴史観の変化「暗記重視」から、史料（証拠）に基づいて「何が事実と言えるか」を考える探究型の学習へと教育方針が変わってきたことも影響しています。

まとめ

今の子どもたちは、「昔よりリアルで、より科学的な根拠に基づいた歴史」を学んでいます。親子で教科書を見比べてみると、ジェネレーションギャップがあって面白いかもしれません。

※他の教科書も保護者の世代との違いがあります。その違いを楽しみ、お子さんとの会話の材料にしてみてもいいでしょう。

親世代とは大違い！日本の歴史教科書「新常識」

